

「青山学院初等部の日常」

初等部後援会長 真山 健

今年度より後援会長を務めます真山でございます。私は、長女が中等部、次女が初等部に在籍しておりまして、青山学院初等部の保護者となってからは今年で8年目を迎えます。

初等部では「キリスト教教育」が学校生活の様々な場面に根付いており、そしてその環境で6年間を過ごす中で、子供たちが、自分自身や周囲の人を大切にできる人に確実に成長していることに、保護者として大変喜ばしく思っております。

新入生は、初等部の入学式でまず部長先生と「5つのおやくそく」をして、学校生活をスタートします。この「しんせつにします」「しょうじきにします」「れいぎたたくします」「よくかんがえてします」「じぶんのことはじぶんでします」の5つの約束。簡単で平易な言葉ではありますが、さて実践するとなると、どうでしょうか？皆様ご自身を振り返ってみていただければと思います。私も娘に注意をする際に、この約束のことを引き合いに出すことがあります、翻って自分が実践できているかどうか、少々自信がございません。しかし、初等部の子供たちを見ると、どの子供たちも学校生活を送る中で、この言葉が自然と身についていっていると感じます。毎朝の礼拝や宗教の授業、年間を通して行われるキリスト教にまつわる行事、宿泊学習等を通じた生活の中で、自分を大切に、他者を思いやる、キリスト教の精神が培われていくのではないのでしょうか。

もう一つ、保護者として喜びを感じる瞬間があります。保護者は毎日プリントや日記にサインをするのですが、そこで子供の成長が垣間見えた瞬間です。正直に申し上げると朝の忙しい時間帯に遅れて日記を出してきた時には、親子でもめごとになることもありますが、前日まで出来なかった問題ができるようになった瞬間、日記にいきいきとした文章を書いてくれた瞬間、子供の成長をリアルタイムに見ることができるのは大変幸せなことです。

そして学期末に本人だけでなく家族と先生とも話し合っ作りあげる「成長の記録」。「A その学期でできるようになったこと」「B まだできていないと思われること」「C 力を伸ばすために、取り組んでみたい具体的な課題と方法」をそれぞれあげていき、Bのできていない項目をC項目の具体的な行動を通して、Aのできる項目にしていくといういわゆるPDCAなのですが、これが画一的な基準で各教科の評価を行う通知表とは大きく異なる点です。これをまとめる際には、親子で書き出す項目の見解が異なり、纏めるのに一苦労することもございますが、その学期をつぶさに振り返り、その子なりの成長を親子で素直に喜びあえます。最終的に形となった「成長の記録」は、その子供にとって初等部生活の宝となります。

青山学院初等部で子供たちは毎日楽しく学校生活を送り、そして自己と他人を思いやるキリスト教教育に自然と触れ、着実に成長していきます。その姿を6年間間近に見ることができるのは保護者として最大の幸せであり、そうした学校は唯一無二ではないかと思っております。このことを、初等部を志望される皆様にも、ぜひご理解いただければ幸いです。

以上